

1 博物館ネットワーク計画「相模原どこでも博物館」の策定について

(説明者：生涯学習部長)

(1) 主な意見等

ネットワークに関する質疑

○サブコア施設としての相模川ふれあい科学館との連携はどのようなものか。

→ふれあい科学館をコア施設とする相模川フィールドミュージアム構想が策定中であり、ふれあい科学館を相模川をテーマとするサブコア施設として位置づけ、博物館ネットワークの連携を図っていきたい。

○津久井郷土資料室の整備計画はどうなっているのか。収蔵資料は貴重なものが含まれているのか。

→郷土資料室と尾崎罌堂記念館との一体的整備については、市民ニーズを踏まえた上での将来課題としたい。資料としては、城山ダムの水没地域の民俗資料と鈴木重光氏の収集資料を中心とした約2万点を収蔵している。特に、郷土史家であり、柳田国男との親交もあった鈴木氏のコレクションは貴重である。

○将来的に、それらの貴重な資料は博物館に引き上げてしまうのか。政令市移行により、四町の枠組みが消え津久井の名称なども消えていくことも考えられ、それを残す意味で津久井郷土資料室が現地にある意味は大きいのではないか。

→博物館に資料を引き上げることは考えていない。尾崎罌堂記念館の再整備の目標には、罌堂の偉業や生誕地である津久井を知るとともに多面的に活用できる施設とすることを掲げている。

○「どこでも博物館」という言葉のイメージにマッチさせるための地域との連携が必要である。つまり、街角を歩いていてどこにでも博物館的な要素があり、それを尋ね歩く人がいて、地域の人たちがフォローアップするといったことが、おそらく市民が「どこでも」という言葉に対して感じるイメージだといえる。

(2) 結果

○ 原案のとおり承認